

2 社会

(1) 第1学年

① 分析と生徒の状況

ア 分析および学力の状況

- ・ 授業評価によると、学習に前向きに取り組む生徒が多い。ほとんどの生徒は授業プリントを丁寧に取り組むことができる。しかし、ワークシート等で自分の言葉で説明する課題に対して苦手意識を持つ生徒が少なくない。
- ・ 資料を使った学習にも多くの生徒が意欲的に取り組んでいる。しかし資料を理解し活用することを苦手とする生徒も少なからずいる。
- ・ 資料問題や教員の発問に対して、自ら考え、意見を発表することを苦手とする生徒が多い。授業が受け身の態度（答えを待っている）の生徒が見られる。
- ・ 地名や歴史用語などの基本的事項を覚えて、正確に漢字で表記することができていない生徒も一部に見られる。

② 本校の課題

ア 学習面（生徒の課題）

- ・ 繰り返し学習することの重要性を理解させ、引き続き基本事項の定着の徹底を図るとともに、文章読解力を中心とする言語活動の力を高める。
- ・ 年表や図、グラフに加え、教科書本文などの資料を正確に読み取る力、またそれらを活用する力を伸ばす学習をより進める。

イ 指導面（教師の課題）

- ・ 定着すべき基本事項を明確にした課題を設定する。また、小テストや定期考査にも繰り返し出題し、基本事項を定着させる。
- ・ 授業プリントの作成においては、資料活用能力を付けるための課題や、それらの解釈や説明、論述などの言語活動を一層充実する内容となるよう留意する。
- ・ 特別な支援が必要な生徒への個別の配慮を意識的に行う。

③ 授業改善案

ア 基礎・基本事項の定着を重視した授業

- ・ 定着すべき基本事項を明確化するとともに、定期的な小テストの実施や定期考査への出題を行い、繰り返しの学習による基本事項の定着を実現する。

イ 資料の読み取り、活用を重視した授業

- ・ 意識的に諸資料から有用な情報を適切に選択し、それら効果的に活用する授業構成とする。

ウ 言語活動を重視した授業

- ・ 話し合い活動を重視するとともに、記述による言語活動を重視した授業プリントを用いて授業を構成する。

エ パソコンと大型テレビによる教材提示など I C T機器を取り入れた授業

- ・ 各種DVDや10min. ボックスなどの視聴覚教材やデジタル教科書を効果的に活用する。

オ 家庭学習の定着

- ・ ワークブックによる復習や教科書の音読、まとめノートを作成を通して家庭学習を定着させる。

(2) 第2学年

① 分析と生徒の状況

ア 分析

- ・ 授業評価によると、学習に前向きに取り組む生徒が多い。ほとんどの生徒は授業中のノート作りを熱心におこなう。しかし黒板を写すことで満足してしまい、授業のポイントをつかめていない生徒も少なくない。
- ・ 資料を使った学習にも多くの生徒が真剣に取り組んでいる。しかし資料を理解し活用することを苦手とする生徒も少なからずいる。
- ・ 資料問題や教員の発問に対して、自ら考え、意見を発表することを苦手とする生徒が多い。授業が受け身の態度（答えを待っている）の生徒が見られる。

イ 学力の状況

本校の現2年生の社会科の学力については、以下のような傾向が見られる

- ・ 「知識・技能」の観点ではおおむね満足できる生徒が多い。
- ・ 「思考・判断・表現」の観点の能力に課題がある。何が問題なのか、問題点を理解する、問題文を読み取り解答を作る力が足りない。

② 本校の課題

ア 学習面（生徒の課題）

- ・ 課題の意図や背景、理由を理解する。
- ・ 学習課題を理解したら、自分で考え、理解したことを定着できるまで「繰り返し」学習をする。

イ 指導面（教師の課題）

- ・ 学習内容や課題を記入するワークシートを用意し、自分で考える習慣をつける。
- ・ 「思考・判断・表現」能力をのばすため、問いかけを増やし、発言の機会を多くする。“課題の理解→考える→発言する”の流れを作る。

③ 授業改善案

ア 言語活動を取り入れた授業

- ・ 資料を見てわかったことを「文章にまとめる」、「まとめたことを発表する」場面を作り、言語活動を意識した授業を行う。こうした活動を意識した授業を工夫する。

イ 特別支援の視点を取り入れた授業

- ・ 学習目標（何がポイントか）を示し、学習活動の指示を明確に行う。
- ・ 理解できていない生徒には個別に指導する。
- ・ 教員の立ち位置や問いかけ内容を変えながら、個別指導を行う。

ウ 家庭学習の定着

- ・ 課題プリントやワークブックを使って、指導内容を厳選し繰り返す。
- ・ 授業に時間の余裕を持たせるため家庭学習部分を増やす。

(3) 第3学年

① 分析と生徒の状況

ア 分析および学力の状況

- ・ 授業評価によると、学習に前向きに取り組む生徒が多い。ほとんどの生徒は授業中のノート作りを熱心におこなう。しかし黒板を写すことで満足してしまい、授業のポイントをつかめていない生徒も少なくない。
- ・ 基本的事項習得のための反復練習に熱心に取り組んでいる生徒が多数おり、学力の底上げが進んでいる。
- ・ 一方、家庭学習を含めた、自主学習の習慣がまだ確立していない生徒が一部おり、定期考査における得点分布でも特に低い層に一定の割合が存在する。

② 本校の課題

ア 学習面（生徒の課題）

- ・ 繰り返し学習することの重要性を理解させ、引き続き基本事項の定着の徹底を図るとともに、文章表現力を中心とする言語活動の力を高める。
- ・ 年表や図、グラフに加え、教科書本文などの資料を正確に読み取る力、またそれらを活用する力を伸ばす学習をより進める。

イ 指導面（教師の課題）

- ・ 定着すべき基本事項を明確にした課題を設定する。
- ・ 授業プリントの作成においては、資料活用能力を付けるための課題や、それらの解釈や説明、論述などの言語活動を一層充実する内容となるよう留意する。
- ・ 特別な支援が必要な生徒への個別の配慮を意識的に行う。

③ 授業改善案

ア 基礎・基本事項の定着を重視した授業

- ・ 定着すべき基本事項を明確化するとともに、定期的な小テストの実施や定期考査への出題を行い、繰り返しの学習による基本事項の定着を実現する。

イ 資料の読み取り、活用を重視した授業

- ・ 意識的に諸資料から有用な情報を適切に選択し、それら効果的に活用する授業構成とする。

ウ 言語活動を重視した授業

- ・ 話し合い活動を重視するとともに、記述による言語活動を重視した授業プリントを用いて授業を構成する。

エ タブレットと大型テレビによる教材提示など I C T機器を取り入れた授業

- ・ 各種DVDや10min. ボックスなどの視聴覚教材やデジタル教科書を効果的に活用する。

オ 家庭学習の定着

- ・ 授業復習ノート(まとめノート)の作成を指導する。
- ・ 定期的に復習プリントに取り組ませる。分からないところは教科書を使って調べる。